



決算報告会

2024年 5月 16日

株式会社カインズ
代表取締役社長
長津 行宏

上地 史朗 「お別れの会」 を恙なく執り行いました

- ・2023年9月5日に逝去された、当社 上地 史朗 取締役会長（享年67歳）の「お別れの会」を、2023年11月30日 東京會館で執り行い、当社役員・社員やOB、取引先や業界関係者など凡そ300名弱が別れを惜しみました。
- ・故 上地 史朗氏は、1980年にカイノス入社後、営業や開発部門で手腕を発揮され、2011年4月の代表取締役社長就任以降も、「すべての社員が営業マンたれ」との方針のもと、新製品の開発、品質向上から収益改善に努められ、経営基盤を盤石なものとなりました。社長として11年間と会長としての1年間で、自社製品の売上比率は40% から80%以上に上昇し、また当社株価も300円台から1,000円以上に回復しました。
- ・故人が遺した経営基盤と価値観を引き継ぎ、今後も臨床検査分野から社会に必要とされる会社を目指し、更なる発展に向けて、役員・社員一同邁進してまいります。皆様より頂戴いたしましたご厚情に心から感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



略 歴

- 1955年 9月 大阪府堺市生まれ
- 1980年 4月 株式会社カイノス入社
- 2001年 6月 同社 取締役
- 2005年 4月 同社 常務取締役
- 2011年 4月 同社 代表取締役社長
- 2022年 4月 同社 代表取締役会長
- 2023年 6月 同社 取締役会長

主な外部役職

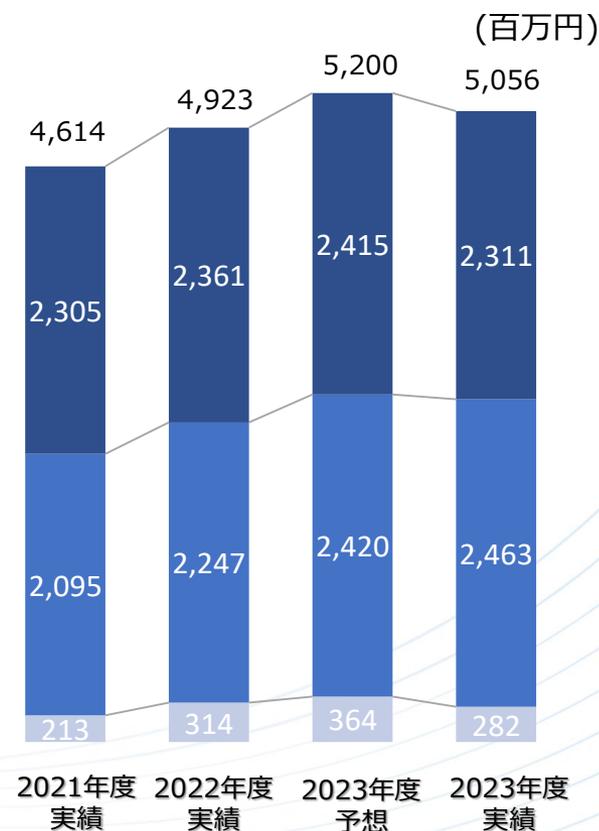
- 2014年 5月 一般社団法人日本臨床検査薬協会 理事
- 2015年 5月 同会 副会長

2023年度 決算

売上高(検査分野別)

- ・生化学、免疫検査事業ともに、新規採用の遅延により予想を下回ったが、前年額以上を確保した。
- ・全体としては予想に届かなかったが、前年額を2.7%伸長

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想	2023年度 実績	期初予想比 増減額
生化学	2,305	2,361	2,415	2,311	▲104
免疫	2,095	2,247	2,420	2,463	43
その他	213	314	364	282	▲82
合計	4,614	4,923	5,200	5,056	▲144



売上高(生化学)

- ・大学病院はじめ基幹施設へマルチキャリブレーターを活用し、更なるシェアアップに向け提案しているが、新規採用時期が遅延

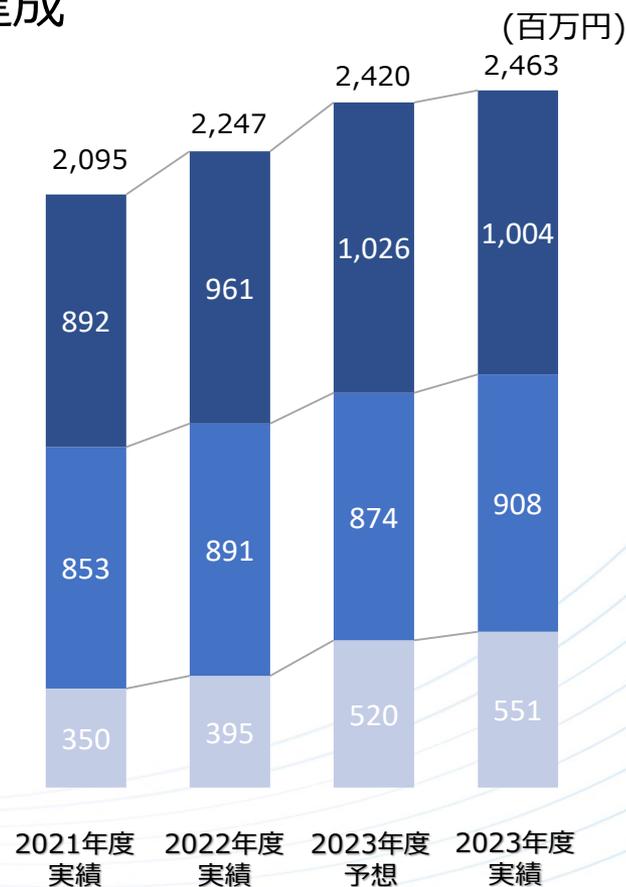
	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想	2023年度 実績	期初予想比 増減額
腎機能	807	857	930	838	▲92
肝機能	542	519	532	517	▲15
糖尿病	469	478	530	514	▲16
その他	487	507	423	442	19
合計	2,305	2,361	2,415	2,311	▲104



売上高(免疫)

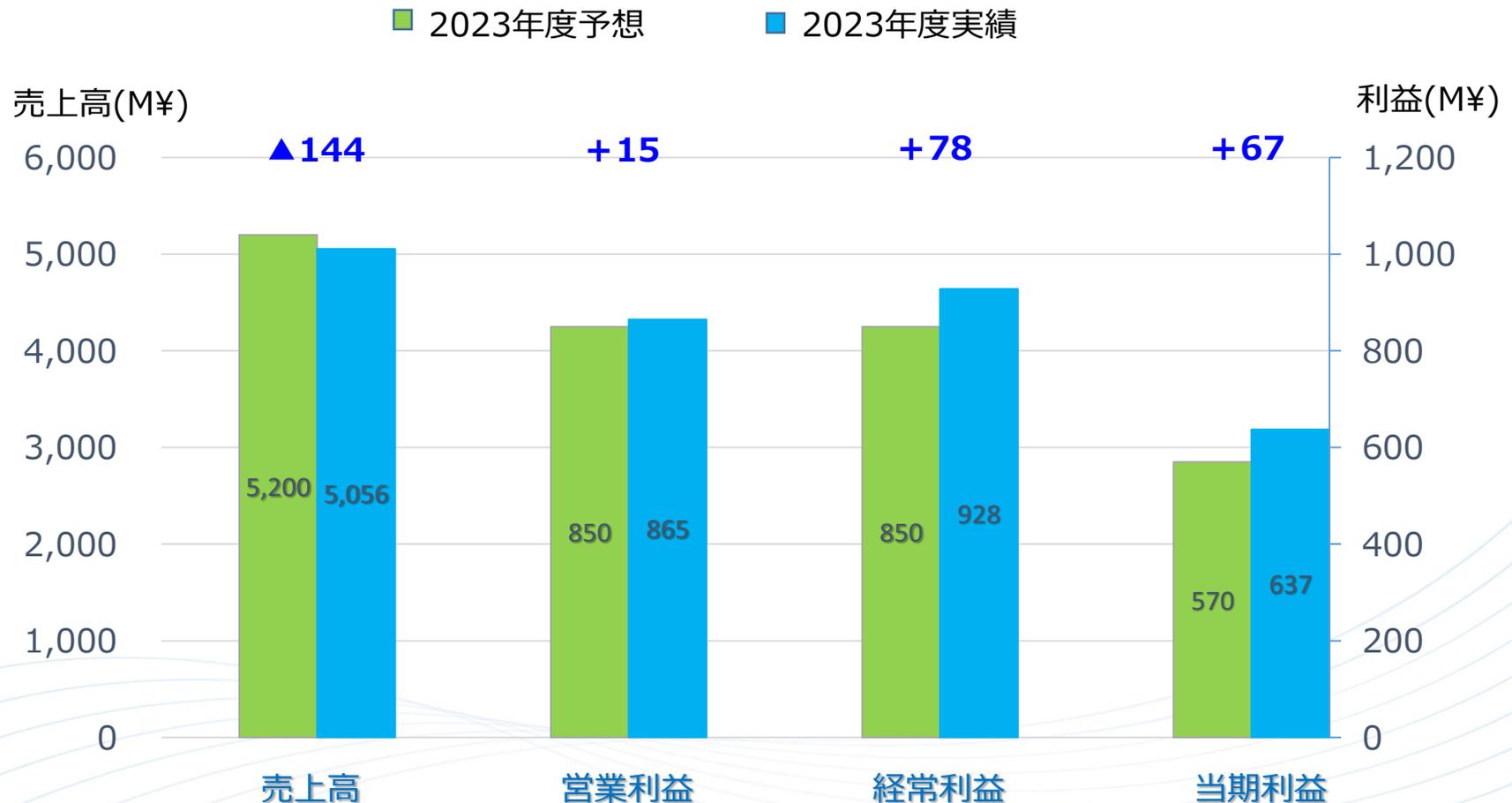
- ・輸血事業 : 3月に基幹施設での機器の新規設置が集中したことで、予想を下回ったが、前年額以上を確保
- ・腫瘍マーカー : 予想、前年ともに、下期で挽回し達成

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想	2023年度 実績	期初予想比 増減額
輸血 (除機器)	892	961	1,026	1,004	▲22
腫瘍 マーカー	853	891	874	908	34
その他	350	395	520	551	31
合計	2,095	2,247	2,420	2,463	43



2023年度 決算

2023年度予想に対し、売上高は未達ながら 各段階利益は達成



2023年度 決算 (対予想)

(単位：百万円)

		2023年度 予想	2023年度 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,468 (85.9%)	4,286 (84.8%)	▲182	▲4.1
	商品	732 (14.1%)	770 (15.2%)	+38	+5.2
	計	5,200 (100%)	5,056 (100%)	▲144	▲2.8
営業利益		850	865	+15	+1.8
経常利益		850	928	+78	+9.2
当期純利益		570	637	+67	+11.8

2023年度 決算 (対前期)

(単位：百万円)

		2022年度 実績	2023年度 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,149 (84.3%)	4,286 (84.8%)	137	3.3
	商品	774 (15.7%)	770(15.2%)	▲4	▲0.5
	計	4,923 (100%)	5,056 (100%)	133	2.7
営業利益		821	865	44	5.4
経常利益		853	928	75	8.8
当期純利益		568	637	69	12.1
当期純利益率		11.5%	12.6%	—	—

2024年度の取り組み

- 2023年度の取り組み結果を踏まえて -
 1. 営業・学術活動
 2. 新製品開発
 3. 効率化・コスト削減
 4. 法令等対応

営業・学術活動

2024年度の取り組み：営業・学術活動

1. 生化学試薬の拡販

- ・クレアチニン (CRE)：トップシェアの奪取

目標： 863施設 ⇒ 1,000施設

* 改良試薬を開発中、今年度内に上市予定

- ・マルチ9項目のシェアUP

(CRE, UN, UA, IP, Ca, Mg, GL, TP, ALB)

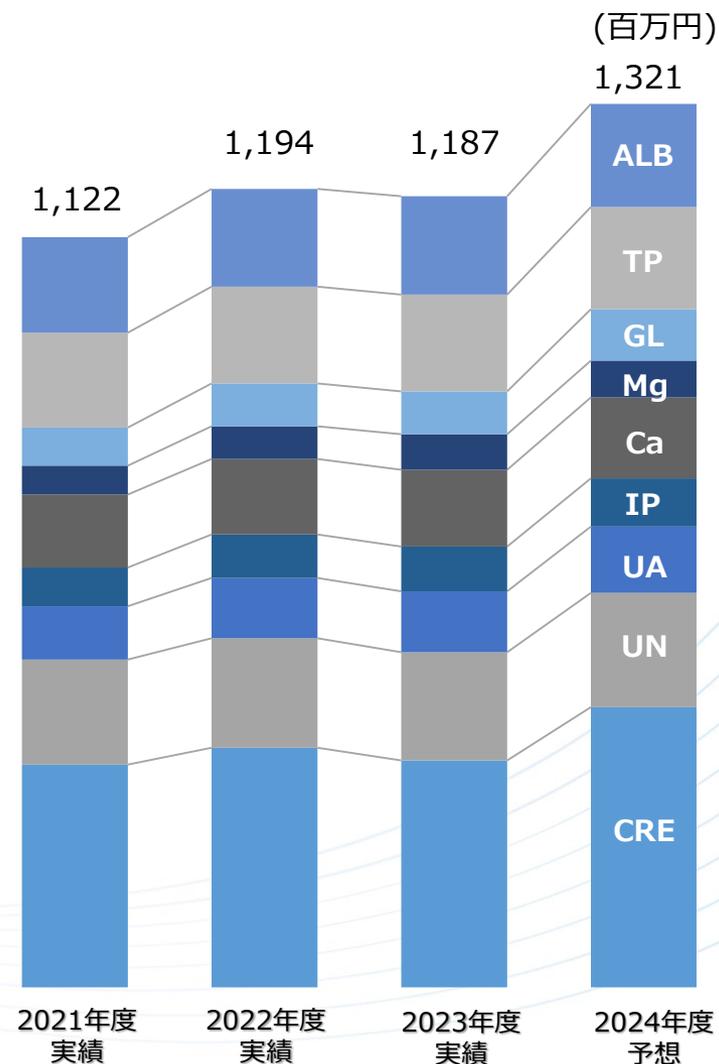
目標： 2,036施設 ⇒ 2,200施設

売上： 1,187百万円 ⇒ 1,400百万円

* プロカルシトニンとのセットランニング推進

* 機器メーカーと協業した提案

* CRE、マルチキャリブレーターの改良に向けて
顧客ニーズ調査



クレアチニン (CRE) 測定的重要性

慢性腎臓病 (CKD)

- CKD患者数：国内で約1,480万人
- 早期発見のための検査
 - ✓ 尿タンパク値：タンパク尿の有無
 - ✓ 血清クレアチニン値：糸球体ろ過量の推算 (eGFR)
重症度に応じてステージ1～5に分類
- 正確な eGFR算出*には、精度の高いクレアチニン試薬が必須

* 推算GFR (eGFR) $eGFR(\text{ml}/\text{分}/1.73\text{m}^2) = 194 \times \text{血清CRE値}^{-1.094} \times \text{年齢(歳)}^{-0.287}$

2024年度の取り組み：営業・学術活動

2. プロカルシトニン(PCT)の垂直拡販

2024年1月「LATECLE PCT試薬」発売開始

*特徴：

- (1) ラテックス凝集比濁法を測定原理とした汎用自動分析装置用試薬
- (2) 細菌感染症疑いとされる
0.5 ng/mLの精度がCV5%以下
- (3) 重症細菌感染性敗血症と考えられる
10 ng/mL の5倍以上の測定範囲



採用 100施設、年間売上 1億円の早期突破

- * 専用機からの切替、他社との性能優位性の啓発
- * 大学病院での受託研究及び学会発表、文献投稿の推進
- * マルチ9項目採用への相乗効果の推進

2024年度の取り組み：営業・学術活動

2. プロカルシトニン(PCT)の垂直拡販

2023年度 下期 学会活動・営業支援

(1) 日本医療検査科学会第55回大会（パシフィコ横浜）ランチオンセミナー（10/8）

演題：敗血症におけるバイオマーカーの特徴と臨床的意義

座長：矢島 智志 先生(横浜市立大学附属病院 臨床検査部 技師長)

演者：石関 治 先生(日本大学医学部附属板橋病院
臨床検査部 生化学検査室 主任)

(2) 第63回日本臨床化学学会年次学術集会（ソラシティカンファレンスセンター）
ランチオンセミナー（10/18）

演題：敗血症マーカーの特徴と臨床的意義

座長：中川 央充 先生(慶應義塾大学病院 臨床検査科 副主任/医学博士)

演者：宿屋 敬 (カインス 学術部)

(3) 第70回日本臨床検査医学会学術集会（出島メッセ長崎）
ランチオンセミナー（11/18）

演題：敗血症マーカーの使い分けと問題点

座長：橋口 照人 先生(鹿児島大学病院 検査部長)

演者：奥藤 由紀子 先生(帝京大学医学部附属病院 中央検査部 課長)

2023年度下期 学会活動・営業支援 PCT(1)

(1) 日本医療検査科学会第55回大会（横浜）

10月6 - 8日

ランチョンセミナー 10月8日(日)

演題：敗血症マーカーの使い分けと問題点

座長：矢島 智志（横浜市立大学附属病院）

演者：石関 治（日本大学医学部附属板橋病院）



2023年度下期 学会活動・営業支援 PCT(2)

(2) 第63回日本臨床化学学会年次学術集会（お茶の水） 10月27 - 29日

ランチョンセミナー 10月28日(土)

演題：敗血症マーカーの特徴と臨床的意義

座長：中川 央充（慶應義塾大学病院）

演者：宿屋 敬（カインス 学術部）



2023年度下期 学会活動・営業支援 PCT(3)

(3) 第70回日本臨床検査医学会学術集会（長崎） 11月16 - 19日
現地開催（一部オンデマンド）

ランチョンセミナー 11月18日(土)

演題：敗血症マーカーの使い分けと問題点

座長：橋口 照人（鹿児島大学病院）

演者：奥藤 由紀子（帝京大学医学部附属病院）



2024年度の取り組み：営業・学術活動

2. プロカルシトニン(PCT)の垂直拡販

2023年度 下期 学会活動・営業支援

- (1) 日本医療検査科学会第55回大会（パシフィコ横浜）ランチョンセミナー（10/8）
演題：敗血症におけるバイオマーカーの特徴と臨床的意義
座長：矢島 智志 先生(横浜市立大学附属病院 臨床検査部 技師長)
演者：石関 治 先生(日本大学医学部附属板橋病院)

2023年度下期

プロカルシトニンの認知度向上のための学会活動に注力

座長：中川 大元 先生(慶応義塾大学病院 臨床検査科 副主任/医士長)
演者：宿屋 敬 (カインス 学術部)

- (3) 第70回日本臨床検査医学会学術集会（出島メッセ長崎）
ランチョンセミナー（11/18）
演題：敗血症マーカーの使い分けと問題点
座長：橋口 照人 先生(鹿児島大学病院 検査部長)
演者：奥藤 由紀子 先生(帝京大学医学部附属病院 中央検査部 課長)

2024年度の取り組み：営業・学術活動

2. プロカルシトニンの垂直拡販

2024年度 学会活動・営業支援(2)

• 学会 / セミナー

- 1) 第64回日本臨床化学学会年次学術集会（8/30 - 9/1, 栃木）
- 2) 日本医療検査科学会第56回大会（10/4 - 6, 横浜）
- 3) 第71回日本臨床検査医学会学術集会（11/28 - 12/1, 大阪）

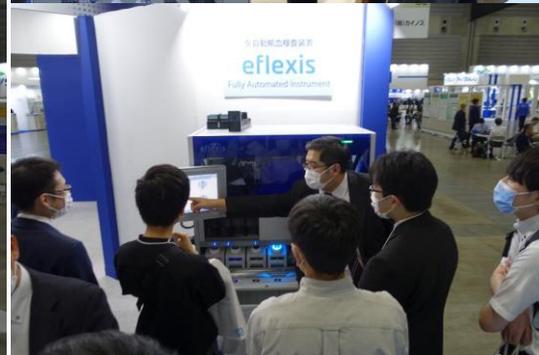
2024年度は、当社製品の
有用性の啓発を中心に活動

2024年度の取り組み：営業・学術活動

3. 輸血事業のシェア 20% 獲得

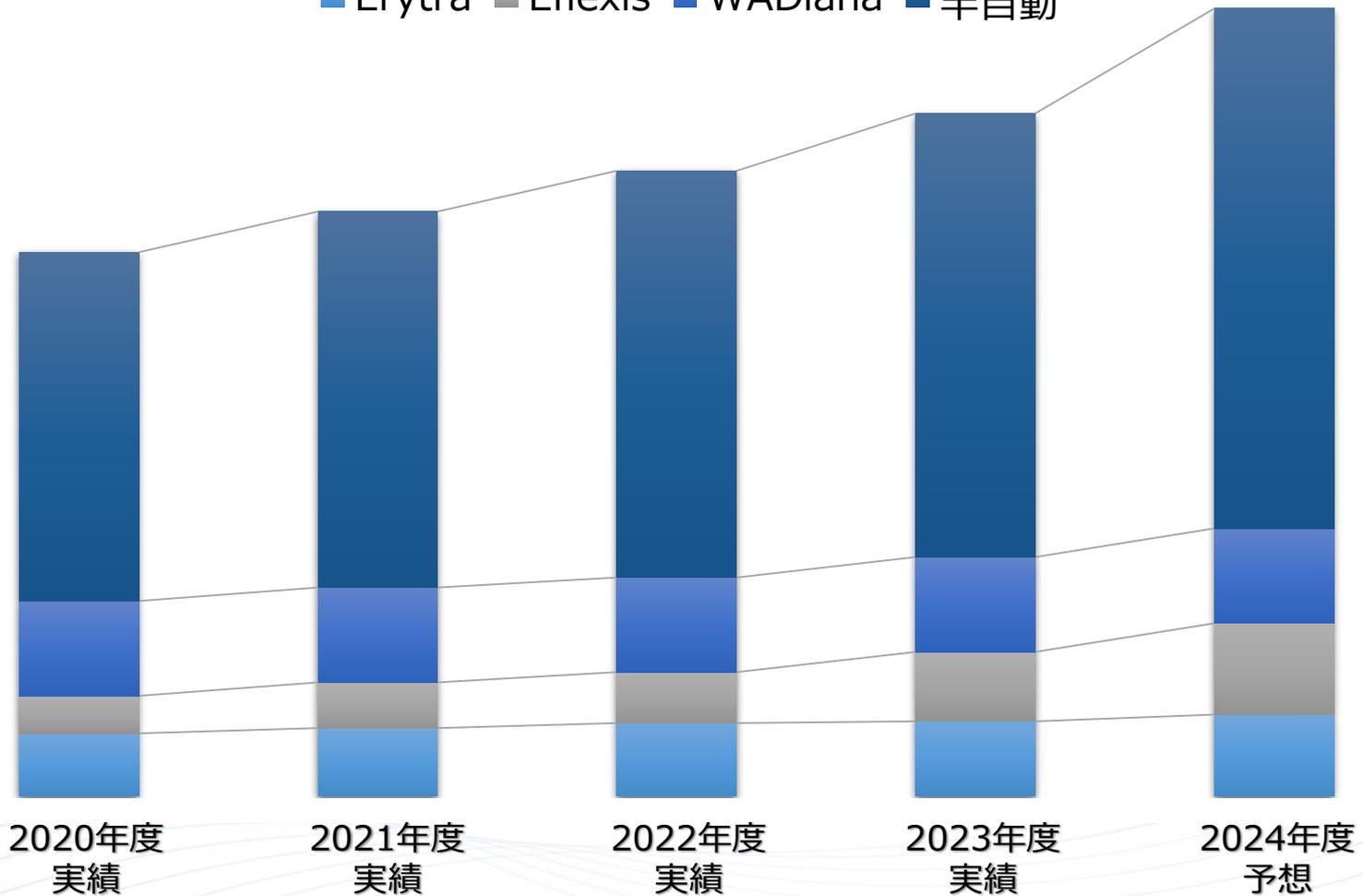
機器設置目標施設：421施設 ⇒ 500施設

- * 機器の優位性を生かした新規及び更新プロモーション
- * 機器見学（リモート）の推進、Webセミナーの継続開催
- * メンテナンス体制の充実
- * 精度管理調査の継続実施



輸血機器台数推移

■ Erytra ■ Eflexis ■ WADiana ■ 半自動



新製品開発

2024年度の取り組み：新製品開発

2023年度 新製品の開発状況から

1) プロカルシトニン試薬の開発

- ・1月に「LATECLE PCT試薬」を発売

2) HISCL試薬の項目拡充

- ・3月に婦人科・性腺ホルモンの試薬を販売

3) NASBA核酸クロマト法 スイフトジーン

SARS-CoV-2「カインス」承認申請のデータ補完

- ・一部変更承認申請中



2024年度の取り組み：新製品開発

1) HISCL試薬の項目拡充

- ・継続して、複数分野・項目の試薬について開発中



+ 複数分野
(複数項目)

2) 他社との協業拡大

- ・新製品導入、製造受託、など

効率化・コスト削減

2024年度の取り組み：効率化

1) 用手法充填作業の自動化（笠間工場）

導入目的：

- ・機械化の促進、品質の安定化、小量容器・少数品番自動化
- ・現行機のバックアップ及び増産体制の構築

仕様・効果：2023年度4Q確定

- ・品種切替が容易な機構、同日複数項目を充填可能
- ・用手法からの切替え対象製品：168品番(現行の約1/2を移行)
(残る用手法充填は凍結乾燥品や遺伝子試薬等の特殊製品のみ)
- ・品質安定化、効率アップによる原価低減、増産対応時間の確保

投資額：1億4千万円

設置予定：2025年度見込



2024年度の取り組み：コスト削減

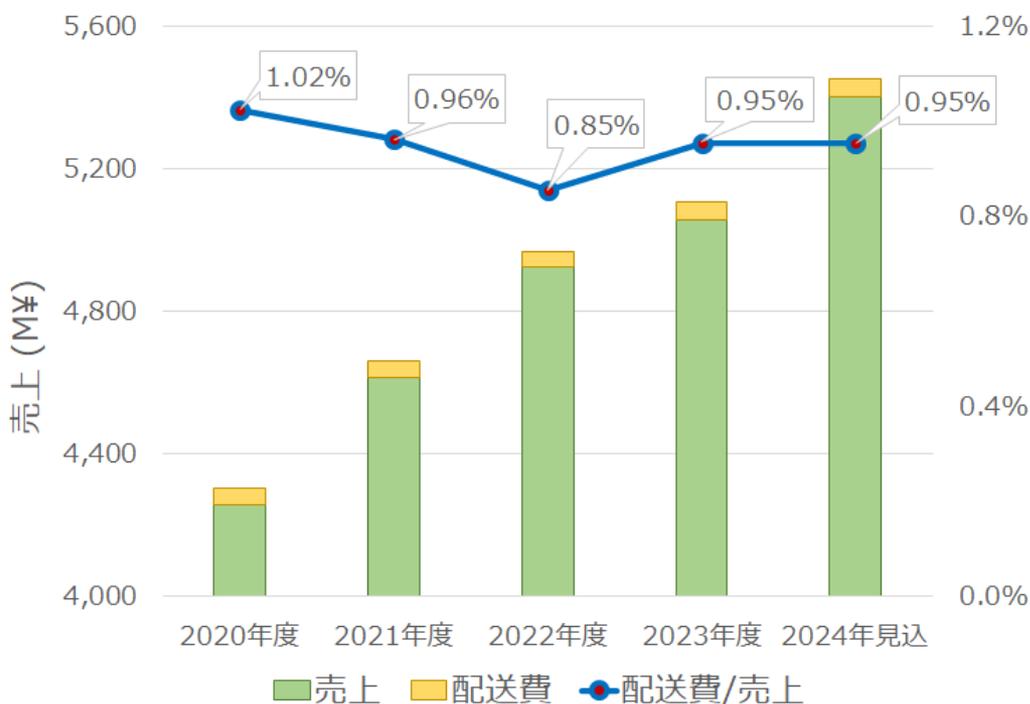
2) 配送費の削減（配送センター）

2023年度の目標と対策： 売上額に対する配送経費の割合を1%以下に抑える

(1) チャーター便・出荷頻度の適正化による運送費削減の継続

(2) 梱包資材の集約・適正化

結果：運送費値上げは無かった・売上額の増加に伴い発送個数，資材購入額が増加
配送費 (対売上比)：微増



2024年度の目標と対策

配送コストの負担軽減

- 2024年問題に伴う運送費の値上げ対応
発送業務の合理化と 配送頻度の削減
運送会社からの値上げ要請を加味した
運送費を予算計上済み
- サステイナブルな社会への対応
配送用梱包資材の削減による
資源節約への取り組み

法令等への対応

2023年度の取り組み：法令等への対応

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

- ・自己資本利益率(ROE) 8%未満・株価純資産倍率(PBR) 1倍割れ企業に対する現状分析から改善計画の策定・開示等が求められている

2023年度の対応： 現状分析及び開示

2023年6月23日付 コーポレートガバナンス報告書への追記

【資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応】

- ・資本収益性の指標であるROEやROIC (株価資本利益率)は、株主資本コストやWACC (加重平均資本コスト)を上回り、資本コストを上回る資本収益性を達成。
- ・一方、PBR は2019年3月期以降 1 倍弱で推移、期末株価上昇率は限定的。
- ・当社の成長性が投資者から十分に評価を頂いていないものと分析、市場評価の改善に向けた適切なIR活動、そのための新製品の開発や設備投資を含む各種計画の具体的な策定から段階的に実施する。

2023年度の取り組み：法令等への対応

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する
開示企業一覧表の公表（東京証券取引所，2024年1月15日）

- ・プライム市場 及び スタンダード市場の上場会社を対象
- ・集計対象時点（今回は2023年12月末時点）で直近に提出されたCG報告書において
 - (1) 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」
というキーワードを記載している場合には「開示済」
 - (2) 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（検討中）」
というキーワードを記載している場合には「検討中」
- ・対応状況： 1,115社が，開示済(851)* 乃至 検討中(264)：
 - (a) プライム市場(1,656社)：開示済 39.9%，検討中 9.4% 記載なし50.8%
 - (b) スタンダード市場(1,619社)：開示済 11.8%，検討中 6.7%、記載なし81.5%

*開示済企業：プライム市場660社，スタンダード市場191社(含KAINOS)
- ・一覧表は今後毎月公表され，開示だけでなく，開示通りに資本効率が改善したか，成長戦略に沿って事業が展開されているか等具体的な成果が求められるようになる

2023年度の取り組み：法令等への対応

PBR改善に向けて

- ・ROE向上 : 収益性改善 (純利益額及び売上高純利益率の向上)
- ・自己資本減少 : 政策保有株式の削減等 (総資本回転率の改善)
- ・株主還元強化 : 配当, 自己株式取得等の検討
- ・IR活動の強化 : 新規開発など自社の事業活動の積極的な開示

株主還元・IR活動の強化：東証等への開示

- 1) 2023年12月27日
敗血症診断に寄与するプロカルシトニンキット「LATECLE PCT試薬」
体外診断用医薬品 製造販売承認取得のお知らせ
- 2) 2024年 3月25日
2024年 3月期 (第49期) 配当予想の修正に関するお知らせ
- 3) 2024年 3月28日
婦人科・性腺ホルモンの免疫検査試薬 6 項目の製造・販売開始のお知らせ

資本収益性 及び 資本コストの現状分析・評価

当社業績・指標	FY2019	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023
自己資本当期純利益率 (ROE)	9.9%	9.2%	10.4%	10.5%	10.7%
株主資本コスト (CAPM)	—	—	8.08%	8.08%	6.51%
投下資本利益率 (ROIC)	8.34%	7.90%	9.50%	10.20%	10.04%
加重平均資本コスト (WACC)	6.40%	6.57%	6.67%	6.95%	5.64%
資本収益性	ROIC>WACC	ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC
株価純資産倍率 (PBR)	0.87	0.90	0.81	0.77	0.81
一株当たり純資産 (BPS)	1,047.77	1,138.21	1,245.93	1,358.35	1,486.43
期末株価 (円)	914	1,021	1,005	1,041	1,197

2024年度の取り組み：法令等への対応

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

PBR改善に向けた取り組みの継続

- ・ROE向上 : 収益性改善 (純利益額及び売上高純利益率の向上)
- ・自己資本減少 : 政策保有株式の削減等 (総資本回転率の改善)
- ・株主還元強化 : 配当, 自己株式取得等の検討
- ・IR活動の強化 : 新規開発など自社の事業活動の積極的な開示

- ・ 資本コストを上回る資本収益性の達成継続に加え、当社の成長性を投資者から評価を頂く継続的な取り組みが必要
- ・ 新製品の開発や各種成果の適切なIR活動や、製造機器などの設備投資の推進

2024年度の取り組み：法令等への対応

2) サステナビリティ・人的資本投資への取り組み

当社事業との関連性から、以下の4つを、当社が優先的に取り組むべき重要課題（マテリアリティ）として特定

- (1) 医療への貢献：社会的に有用な製品・サービスの開発、提供
- (2) 働きやすい職場：働きやすい職場づくり
- (3) 環境との調和：環境保全活動の推進
- (4) ガバナンス：取引の公正・透明・自由な競争と政府・行政との健全な関係

これらのマテリアリティに紐付く、当社事業と連動した重要指標(KPI)を設定し、中長期的な成長と持続可能な社会の実現に貢献していく。

(2) 働きやすい職場 = 人を活かした活力ある企業へ

人的(資本)投資：教育・訓練(スキルアップ)及び賃上げ

- ・ Off-the-Job Training (外部研修や企業内集中研修) の導入から実施
- ・ ベースアップ等による賃上げによる、より高度な人材の確保から生産性向上

2023-2024年度の給与実績：定期昇給を含むベースアップ

a) 2023年度

- ・社員評価対象者(除 昇格者) 基本給ベース平均 : 3.58 %
- ・昇格者を含む全社平均 : 4.61%

b) 2024年度

- ・社員評価対象者(除 昇格者) 基本給ベース平均 : 7.41 %
- ・昇格者を含む全社平均 : 8.92 %

*2024年4月4日連合発表 春闘第3回回答集計資料より

定昇込み賃上げ加重平均額(賃上げ率) 全2,620組合 : 5.24 %

中小733組合 (組合員100-300人) : 4.83 %

(2) 働きやすい職場 = 人を活かした活力ある企業へ

人的(資本)投資： 教育・訓練(スキルアップ)及び賃上げ

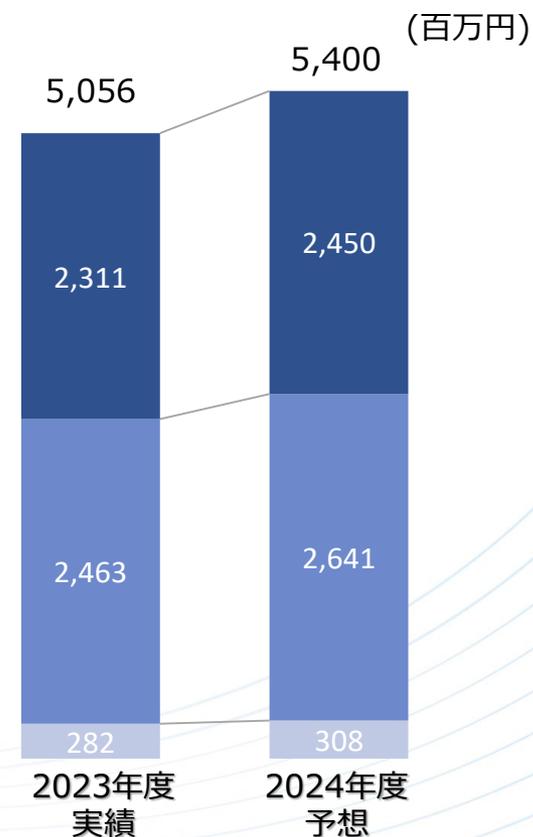
- ・ Off-the-Job Training (外部研修や企業内集中研修) の導入から実施
- ・ ベースアップ等による賃上げによる、より高度な人材の確保から生産性向上

2024年度 予想

売上高(検査分野別)

CREはじめマルチ9項目の基幹施設での更なるシェアアップ
プロカルシトニンの垂直拡販
輸血機器のシェア拡大

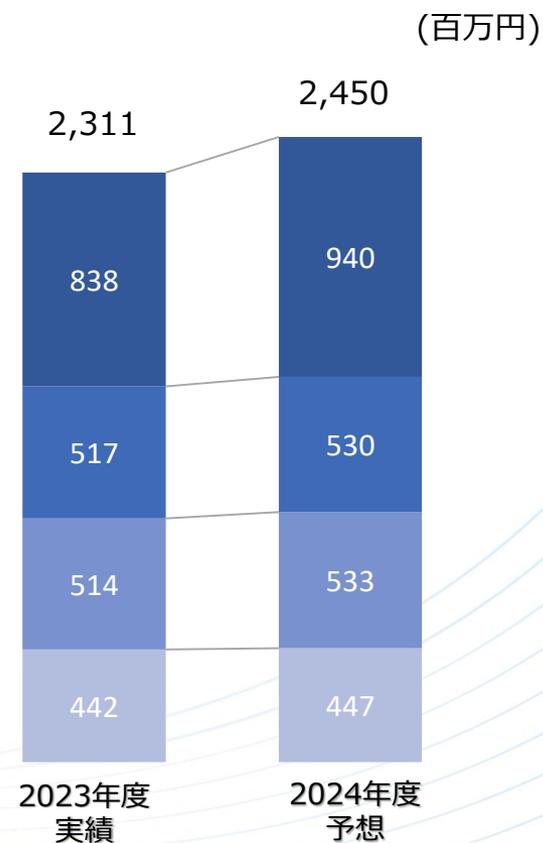
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比 増減額
生化学	2,311	2,450	139
免疫	2,463	2,641	178
その他	282	308	26
合計	5,056	5,400	344



売上高(生化学)

CREのトップシェア及び機器メーカーとの協業によるマルチ9項目の売上拡大

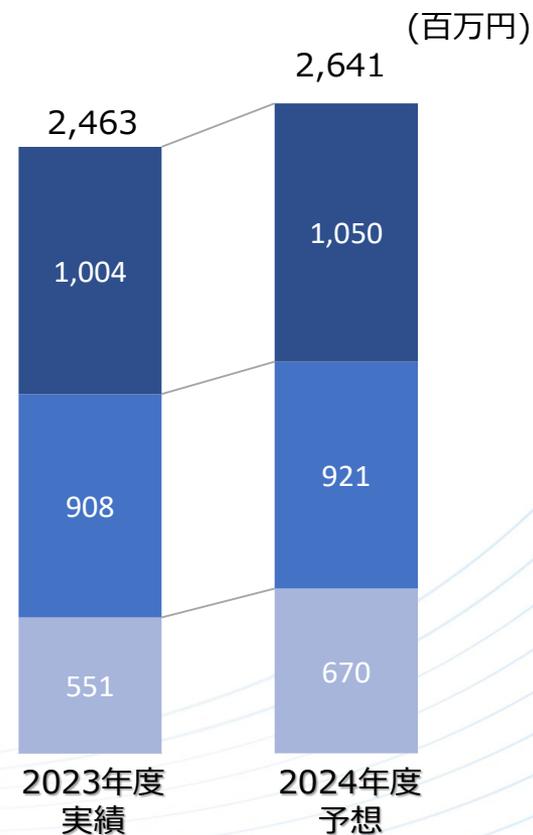
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比 増減額
腎機能	838	940	102
肝機能	517	530	13
糖尿病	514	533	19
その他	442	447	5
合計	2,311	2,450	139



売上高(免疫)

プロカルシトニンの垂直拡販
輸血自動機のシェア20%獲得

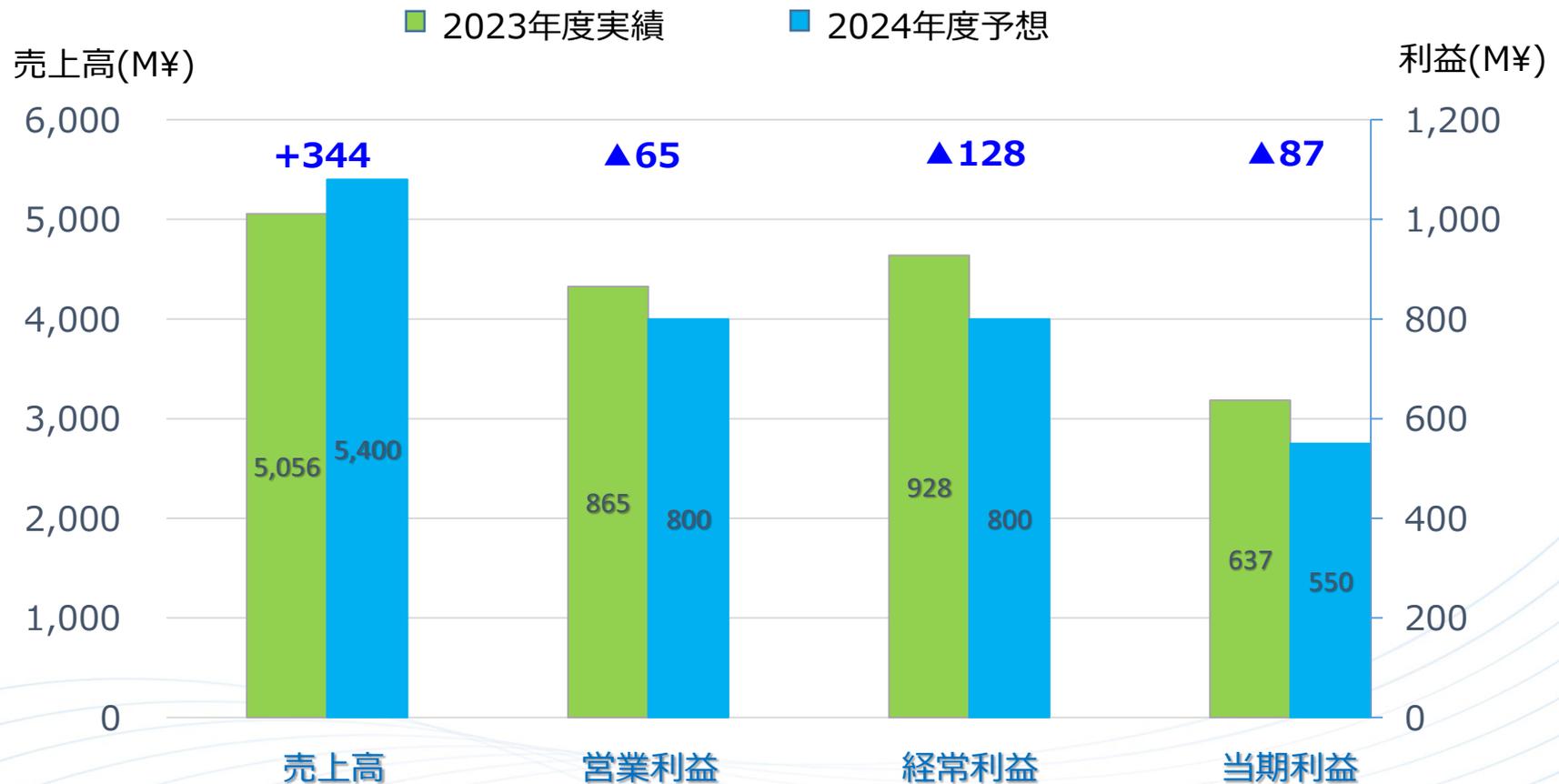
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比 増減額
輸血 (除機器)	1,004	1,050	46
腫瘍 マーカー	908	921	13
その他	551	670	119
合計	2,463	2,641	178



2024年度 予想

積極的な人材採用・賃上げ
新製品の拡販費用
円安による仕入(原価)高

対前期：増収(+6.8%)・減益(営業利益▲7.5%)



2024年度 通期業績予想

(単位：百万円)

		2023年度 通期実績	2024年度 通期予想	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,286 (84.8%)	4,670 (86.5%)	384	9.0
	商品	770 (15.2%)	730 (13.5%)	▲40	▲5.2
	計	5,056 (100%)	5,400 (100%)	344	6.8
営業利益		865	800	▲65	▲7.5
経常利益		928	800	▲128	▲13.8
当期純利益		637	550	▲87	▲13.8

Creative Power & Innovation
Creative Power & Innovation

KAINOS
KAINOS LABORATORIES, INC.

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性を保証するものではありません。本資料に記載されている業績予想等については、現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としており、今後様々な要因の影響から、本資料の予想とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

本資料は投資勧誘や宣伝広告を目的としたものではなく、当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても一切責任を負いかねます。